



◆◆◆ **那須塩原市 定住促進計画** ◆◆◆

Welcome!! なすしおばら ～選ばれしまちへ～

栃木県那須塩原市

平成26年3月

目 次

1	計画策定の趣旨	1
	(1)計画の目的	
	(2)計画の位置づけと計画期間	
2	那須塩原市の現状	2
	(1)位置・交通	
	(2)人口・世帯	
	(3)市への居住期間	
	(4)住宅建築	
	(5)転入・転出状況	
	(6)交流人口	
	(7)流入流出人口(通勤・通学者の動向)	
	(8)企業立地	
	(9)市への愛着度	
3	グループインタビュー・WEBアンケートの結果	12
	(1)グループインタビューの実施	
	(2)WEBアンケートの実施	
4	課題	14
	(1)超高齢社会への対応	
	(2)コミュニティの再生	
	(3)「オール那須塩原」による受け入れ体制の構築	
	(4)シティプロモーションの強化	
5	目標	16
	(1)短期的目標	
	(2)中長期的目標	
	(3)計画のキャッチフレーズ	
6	ターゲットとニーズ	17
	(1)ターゲットの設定	
	(2)施策の方向性	
7	重点施策	21
8	今後の進め方	27

1 計画策定の趣旨

(1) 計画の目的

日本全体の問題となっている少子高齢化の流れの中で、地方においては働き手・担い手である若者の減少や地域の賑わいの喪失などの問題が顕著となっており、自治体が定住促進を図ることは共通の大きな課題となっています。

定住促進のためには、自治体の人々に「選ばれる」必要があります。「選ばれるまち」づくりを進めるためには、自治体が置かれている状況を十分に把握し、状況に合った独自の施策を展開すること、そして自治体を持つそれぞれの個性を明確にすることが重要となってきます。

本市には、那須疏水の開削のために様々な開拓者を受け入れて以降、人と自然との共生を育んできた「選ばれしまち」としての歴史があり、今なお、この時代に培ったフロンティアスピリッツを引き継ぐ文化・風土が残っています。

このように移住者を受け入れる体制の整った本市の特徴を活かしつつ、本市独自の施策展開、個性を明確にすることで定住促進を図り、第1次那須塩原市総合計画の基本構想で定めた市の将来像である「人と自然がふれあう やすらぎのまち 那須塩原」の実現を目指すため、「那須塩原市定住促進計画」を策定します。

(2) 計画の位置づけと計画期間

この計画は、目的を達成するため分野横断的に取り組む「戦略的ビジョン」として位置づけます。計画の策定により本市の持つ課題を整理し、呼び込むべき対象を把握し、有効な施策を総合的に進めていきます。

計画期間は、平成26年度から、第1次那須塩原市総合計画の終了年度である平成28年度までの3年間とします。

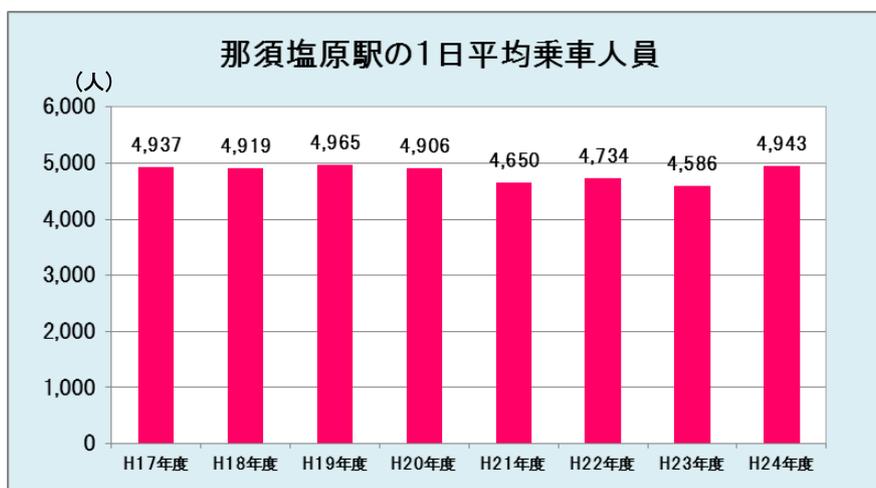
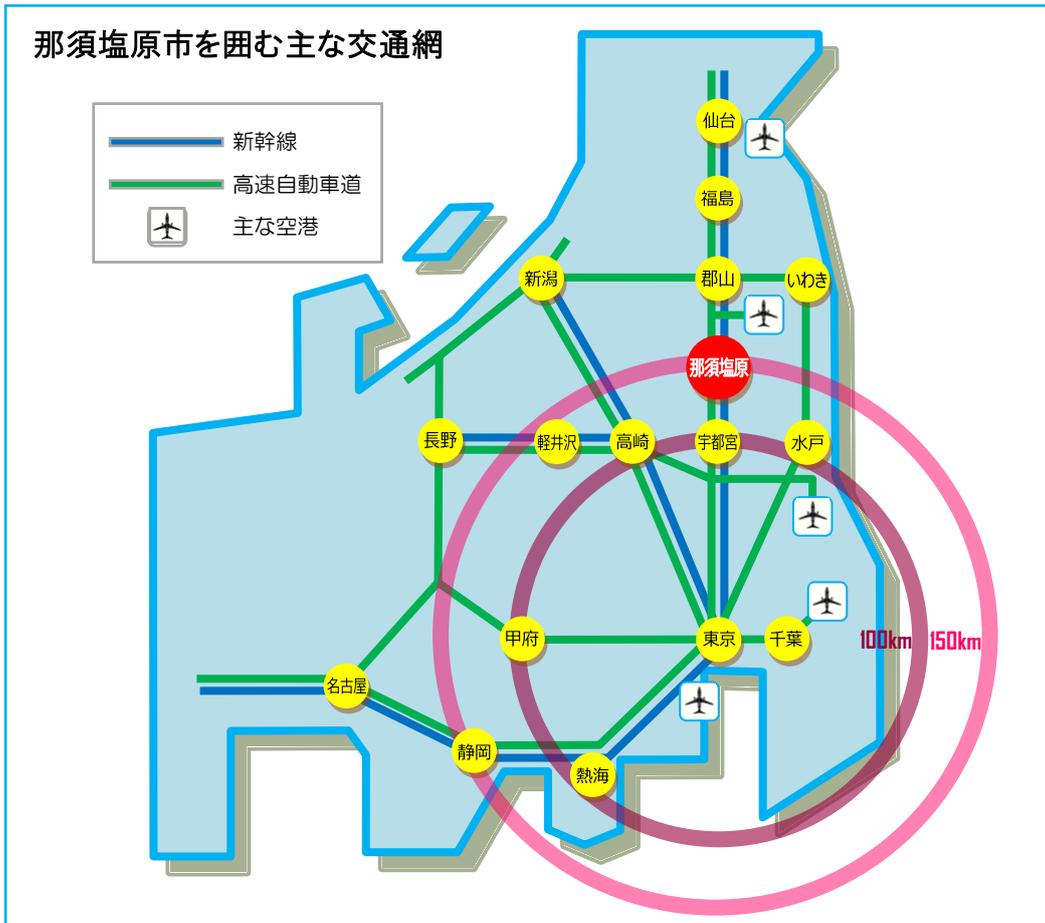


2 那須塩原市の現状

(1)位置・交通

本市は首都東京から150km圏に位置しています。新幹線を利用すれば東京駅から那須塩原駅まで最短70分、また高速自動車のインターチェンジが市内に2か所あり、交通の要衝となっています。

JR那須塩原駅の乗車人員は、1日平均4,900人余りで推移しています。

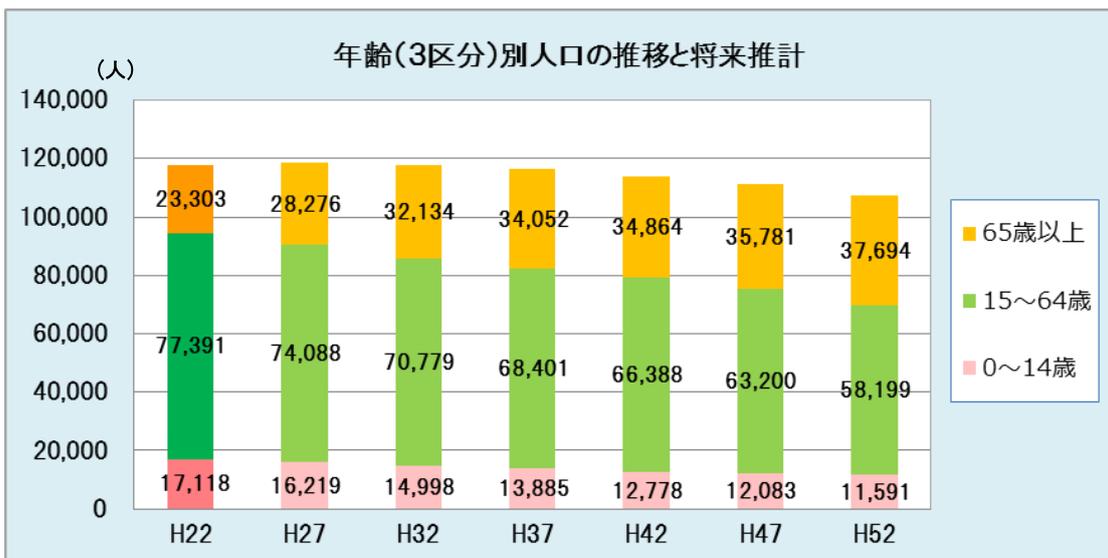
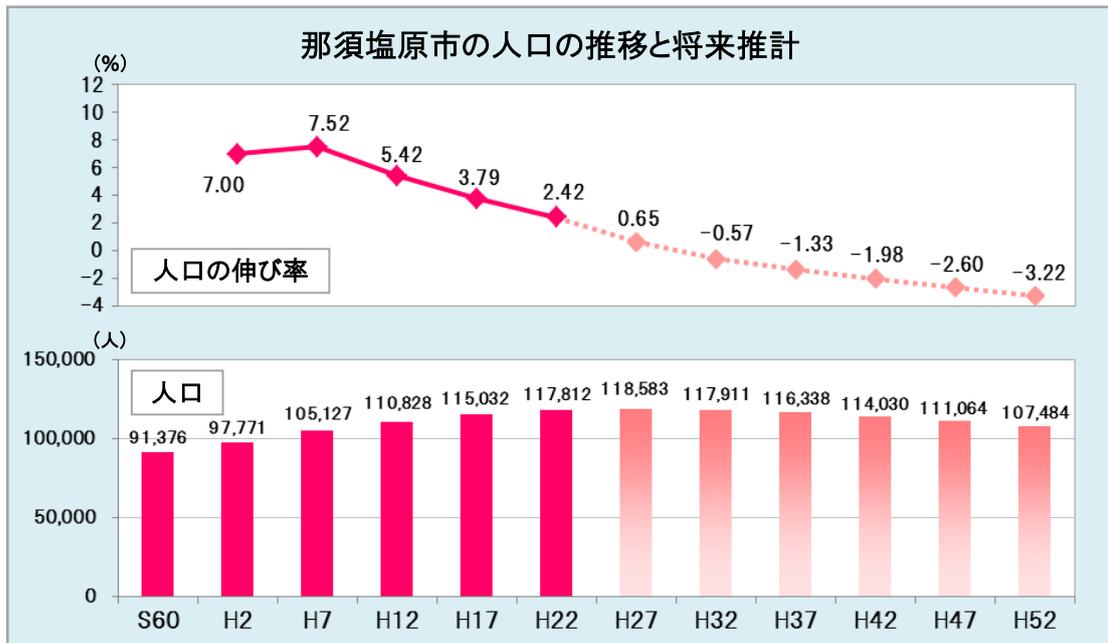


資料：JR東日本ホームページ

(2)人口・世帯

本市の人口は、平成25年4月1日現在117,310人(毎月人口統計)となっています。これまでゆるやかな増加傾向にありましたが、国立社会保障・人口問題研究所の平成25年3月の推計では、平成27年の118,583人をピークに減少に転じ、平成52年(2040年)には107,484人まで減少するとしています。

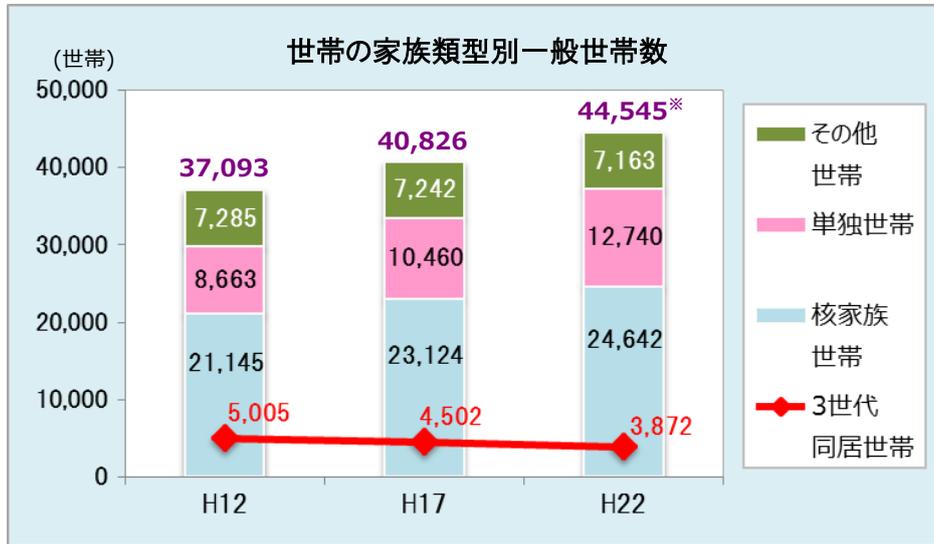
今後予想される出生率の低下に加え、将来的な生産年齢人口の縮小という問題も抱えています。



資料：H22 までは総務省「国勢調査」、推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3.27 公表)

世帯数では、単独世帯および核家族世帯の伸びが顕著となる一方で、親・子・孫が同居する、いわゆる「3世代同居世帯」が減少しています。この背景としては、高齢者の増加や老親と同居をしない子の増加などが考えられます。

※世帯総数に不詳を含まない



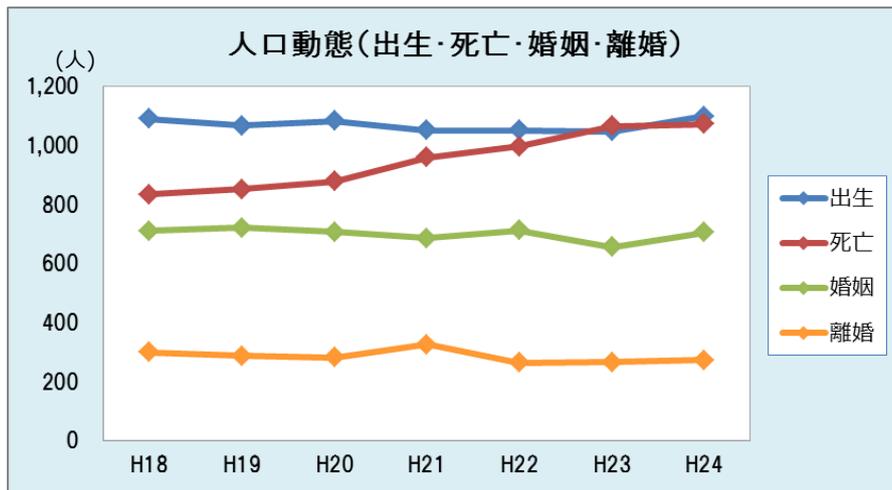
単独世帯：一人で生活している者。

資料：国勢調査

核家族世帯：夫婦のみ、夫婦とその未婚の子女、父親または母親とその未婚の子女。

本市の出生・死亡等の人口動態を見てみると、平成23年には出生者数に対して死亡者数が上回りました。翌24年には再び出生者数が上回ったものの、死亡者数は増加傾向にあります。

また平成24年の離婚率が人口千対2.32となっており、県内で最も高い数値(県平均：人口千対1.85)となっています。



資料：那須塩原市統計書、栃木県人口動態統計(概数)

(単位：人)

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
出生	1,091	1,068	1,084	1,053	1,052	1,049	1,099
死亡	835	853	879	961	998	1,067	1,074
婚姻	712	722	708	686	713	657	706
離婚	300	288	282	326	265	267	273

年齢・男女別の人口変動をしてみると、10代後半に減少し、20代前半から30代前半までは増加する傾向が見られます。

10代後半の人口減少は、進学などによる市外への転出が原因と考えられ、本市において大学などの高等教育機関が不足していることに起因しています。

一方で、20代前半から30代前半までの人口増加は、就職に伴い本市に転入する人が多いことが原因と考えられます。

年齢(5歳階級)・男女別の人口

(単位:人、%)

年齢	平成 17 年 10 月 1 日				平成 22 年 10 月 1 日				変化率 [※]		
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女
総数	115,032	57,184	57,848	100.0	117,812	58,402	59,410	100.0			
0～4歳	5,835	3,014	2,821	5.1	5,338	2,656	2,682	4.5	0.991	0.995	0.987
5～9	6,042	3,077	2,965	5.3	5,782	2,999	2,783	4.9	0.988	0.981	0.994
10～14	6,078	3,075	3,003	5.3	5,967	3,019	2,948	5.1	0.913	0.903	0.924
15～19	6,027	3,044	2,983	5.2	5,550	2,776	2,774	4.7	0.868	0.851	0.886
20～24	5,803	2,942	2,861	5.0	5,231	2,589	2,642	4.4	1.206	1.252	1.159
25～29	8,061	4,209	3,852	7.0	6,999	3,684	3,315	5.9	1.024	1.018	1.031
30～34	9,331	4,753	4,578	8.1	8,256	4,285	3,971	7.0	1.012	1.016	1.009
35～39	7,909	4,070	3,839	6.9	9,447	4,829	4,618	8.0	0.996	0.993	0.999
40～44	7,265	3,790	3,475	6.3	7,877	4,043	3,834	6.7	0.990	0.990	0.991
45～49	7,766	4,010	3,756	6.8	7,194	3,751	3,443	6.1	0.995	0.981	1.010
50～54	9,041	4,650	4,391	7.9	7,729	3,934	3,795	6.6	0.997	0.988	1.006
55～59	9,219	4,604	4,615	8.0	9,011	4,593	4,418	7.6	0.990	0.968	1.012
60～64	7,083	3,603	3,480	6.2	9,130	4,458	4,672	7.7	0.970	0.950	0.991
65～69	5,795	2,802	2,993	5.0	6,873	3,423	3,450	5.8	0.940	0.925	0.955
70～74	4,994	2,320	2,674	4.3	5,449	2,592	2,857	4.6	0.887	0.837	0.930
75～79	4,080	1,759	2,321	3.5	4,428	1,942	2,486	3.8	0.827	0.745	0.890
80～84	2,602	892	1,710	2.3	3,376	1,310	2,066	2.9	0.714	0.604	0.772
85～89	1,328	368	960	1.2	1,859	539	1,320	1.6	0.570	0.451	0.616
90～94	567	136	431	0.5	757	166	591	0.6	0.347	0.324	0.355
95～99	141	30	111	0.1	197	44	153	0.2	0.206	0.100	0.234
100歳以上	16	3	13	0.0	29	3	26	0.0			
年齢不詳	49	33	16	0.0	1,333	767	566	1.1			
平均年齢	41.6	40.4	42.8	-	43.5	42.3	44.6	-			
(再掲)											
15歳未満	17,955	9,166	8,789	15.6	17,087	8,674	8,413	14.5			
15～64歳	77,505	39,675	37,830	67.4	76,424	38,942	37,482	64.9			
65歳以上	19,523	8,310	11,213	17.0	22,968	10,019	12,949	19.5			

資料:国勢調査

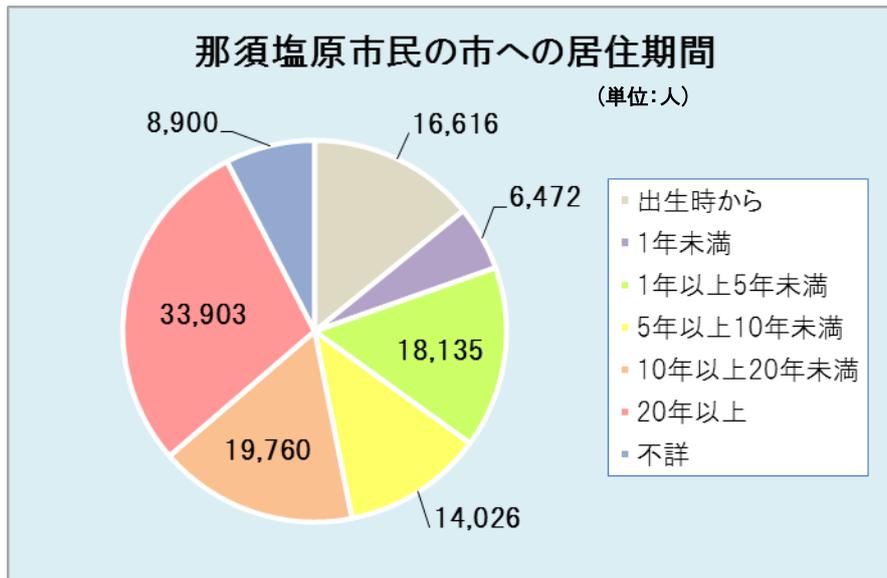
※変化率は、年齢(5歳階級)別の人口の5年後の変化率を示している。

例えば、平成17年に15～19歳の総数は6,027人であるが、5年後の平成22年には20～24歳の総数は5,231人となり、変化率は $5,231 / 6,027 \div 0.868$ となる。

また、平成17年に20～24歳の総数は5,803人であるが、5年後の平成22年には25～29歳の総数は6,999人となるため、変化率は $6,999 / 5,803 \div 1.206$ となる。

(3)市への居住期間

市民が本市にどれだけの期間居住しているかを見てみると、「10年以上20年未満」と「20年以上」の合計で53,663人、約46%となっています。「出生時から」の居住者も16,616人で14%を占めていますが、この中にも長期居住者がいると考えると、約半数は10年以上居住し続けていることがわかります。逆に「1年未満」の人は6,472人で5%となっています。

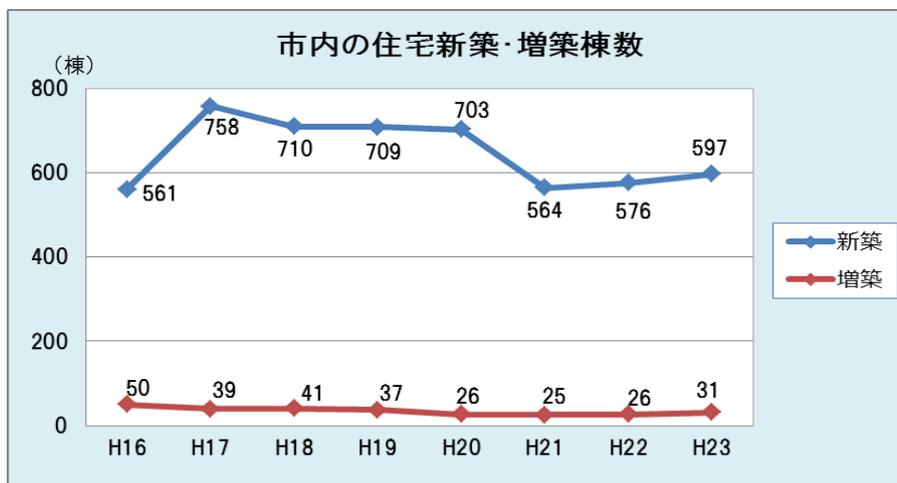


資料:ふるさとウォッチング 統計から見た なすしおばら 第2版(平成24年12月)

(4)住宅建築

本市の住宅新築・増築の動きを見ると、住宅新築は平成17年から20年まで700棟台で推移していましたが、平成21年には564棟に減少し、翌年も576棟となっています。

これは、平成20年のリーマンショックによる影響に加え、長引く不況による住宅購買意欲の低下も原因と考えられますが、今後は消費税増税による駆け込み需要の増が予想されます。

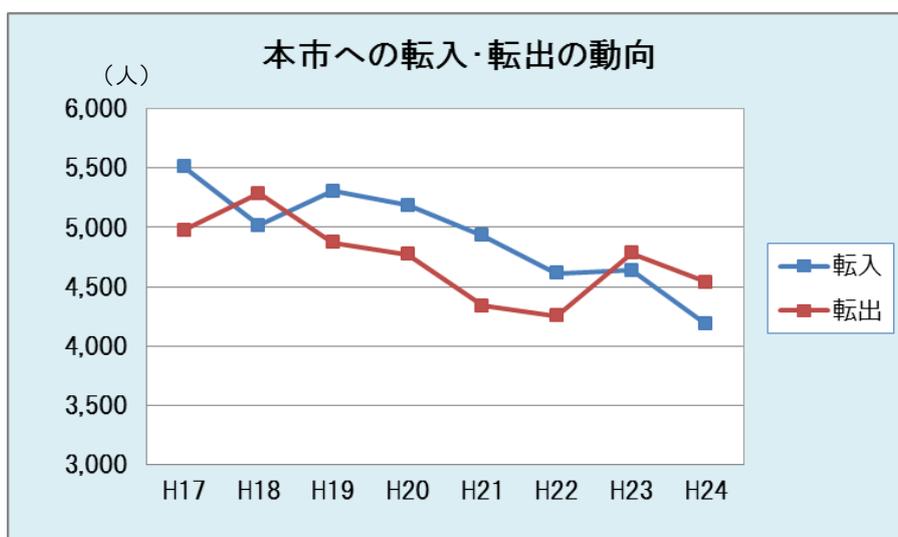


資料:那須塩原市統計書

(5) 転入・転出状況

本市の転入・転出の動きを見てみると、平成17年度は転入者5,510人に対し、転出者が4,977人で社会動態は533人の増でした。その後ゆるやかに減少しながらも、平成22年度までは転入者が転出者を上回っていましたが、平成23年度には転入者4,639人に対し転出者4,784人で145人の減となり、転出者が転入者を逆転しました。平成24年度も353人の減と同様の傾向が見られます。

原因のひとつとして平成23年に起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故による影響が考えられます。



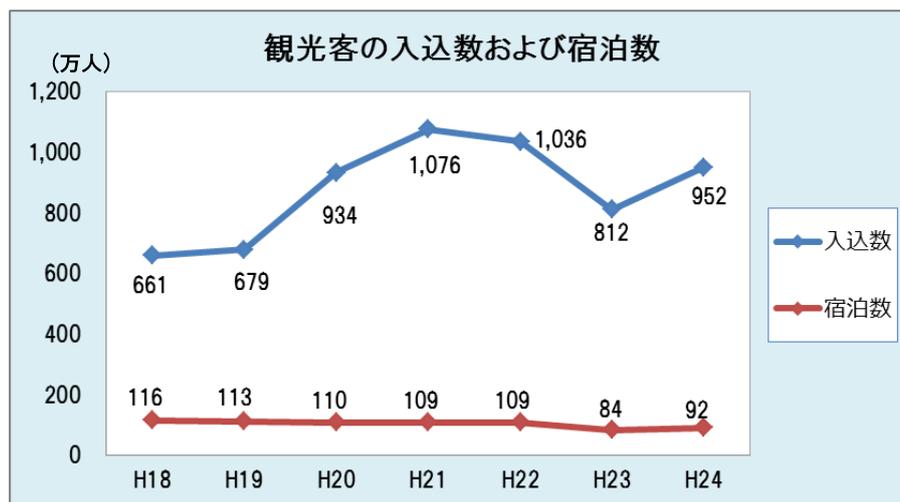
資料：那須塩原市市毎月人口調査報告

(単位：人)

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
転入	5,510	5,017	5,308	5,187	4,930	4,612	4,639	4,184
転出	4,977	5,288	4,870	4,772	4,338	4,253	4,784	4,537
増減	533	▲ 271	438	415	592	359	▲ 145	▲ 353

(6) 交流人口

本市の観光客入込数は、平成22年には1,000万人を超えていましたが、東日本大震災等の影響により平成23年には812万人まで落ち込みました。宿泊者数の推移についても同様の傾向が見られ、現在は回復の兆しを見せていますが、依然として苦戦が続いています。



資料：那須塩原市統計書



(7) 流入流出人口(通勤・通学者の動向)

平成22年の国勢調査によると、本市の流入人口(他の区域から本市への通勤・通学者)は14,310人です。

一方、流出人口(本市から他の区域への通勤・通学者)は21,825人となっています。東京都への流出608人をはじめとした県外への流出(いわゆる県外通勤通学者)は1,333人であり、全体の6.1%となっています。

本市における市町村別流入・流出(15歳以上)人口

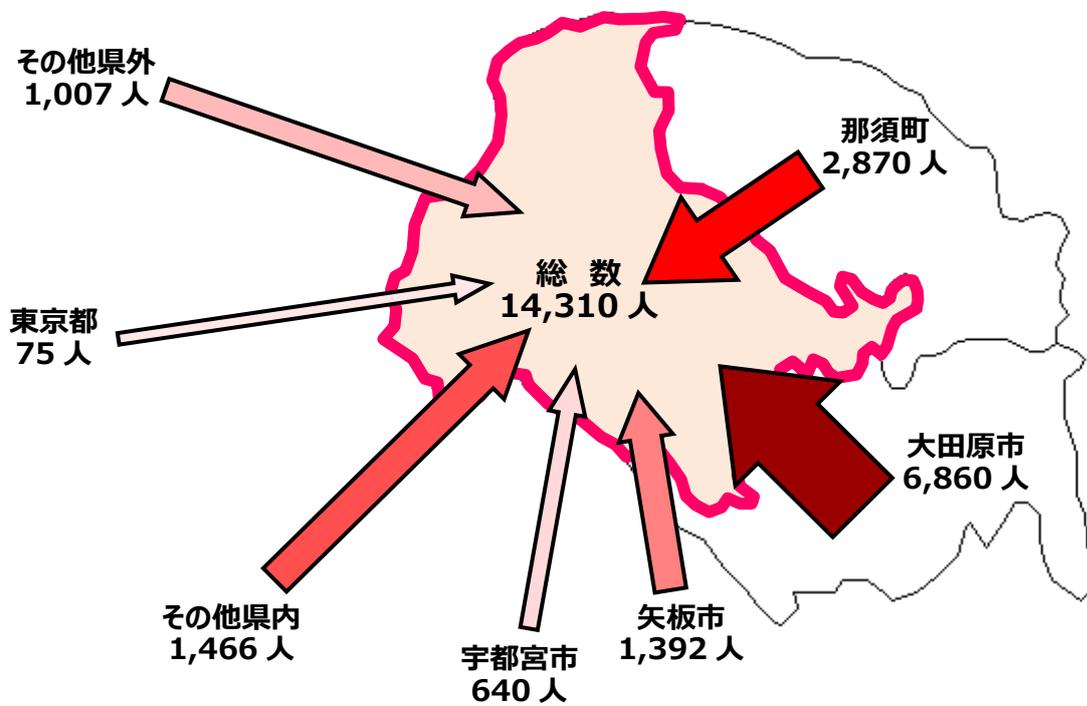
平成22年10月1日現在

単位:人

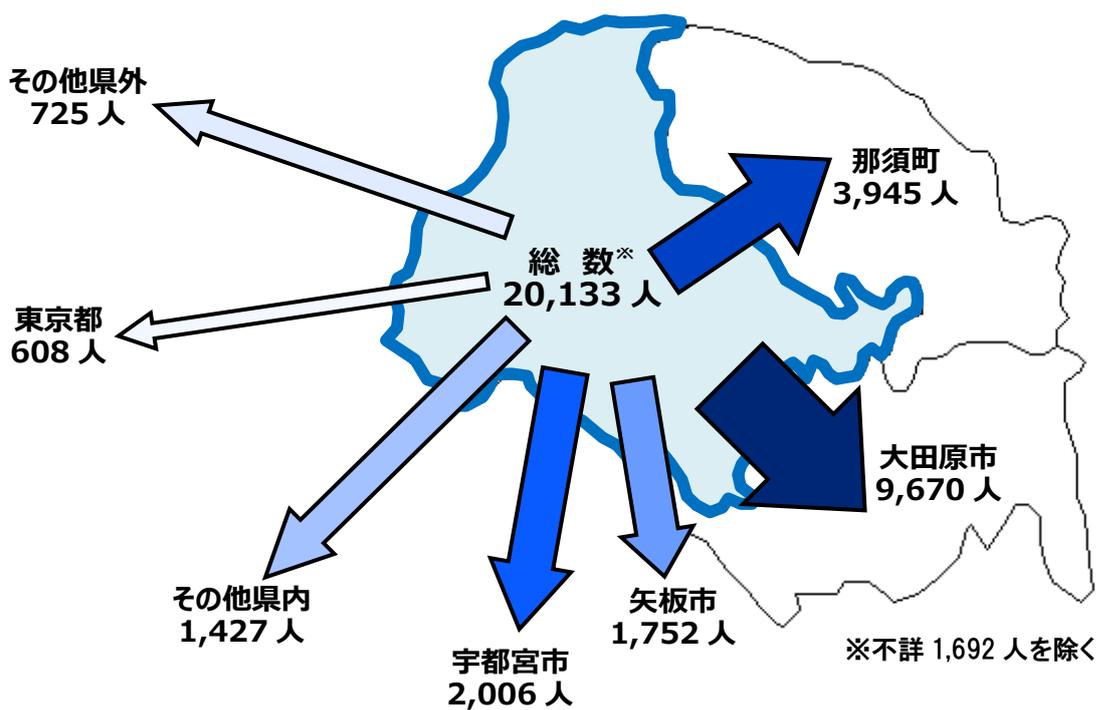
市町村名	流 入			流 出		
	総 数	就業者数	通学者	総 数	就業者数	通学者
総 数	14,310	13,209	1,101	21,825	19,264	2,561
県内総数	13,228	12,136	1,092	18,800	16,635	2,165
宇都宮市	640	634	6	2,006	1,354	652
足利市	1	1	-	10	5	5
栃木市	21	21	-	21	16	5
佐野市	7	7	-	15	13	2
鹿沼市	60	60	-	47	47	-
日光市	139	138	1	143	143	-
小山市	36	36	-	149	73	76
真岡市	12	12	-	15	15	-
大田原市	6,860	6,239	621	9,670	8,831	839
矢板市	1,392	1,286	106	1,752	1,386	366
さくら市	358	343	15	507	485	22
那須烏山市	121	117	4	90	90	-
下野市	25	25	-	20	19	1
上三川町	13	13	-	21	17	4
西方町	2	2	-	-	-	-
益子町	4	4	-	2	2	-
茂木町	5	5	-	3	3	-
市貝町	8	8	-	2	2	-
芳賀町	16	14	2	56	56	-
壬生町	19	19	-	9	8	1
野木町	2	2	-	4	4	-
岩舟町	2	2	-	-	-	-
塩谷町	169	159	10	113	81	32
高根沢町	114	107	7	45	43	2
那須町	2,870	2,568	302	3,945	3,787	158
那珂川町	332	314	18	155	155	-
県外総数	1,082	1,073	9	1,333	1,104	229
福島県	739	735	4	267	218	49
埼玉県	89	88	1	199	160	39
東京都	75	72	3	608	531	77
その他の都道府県	179	178	1	259	195	64

資料:国勢調査(市町村名は平成22年10月1日現在)

流入人口(H22.10.1現在)



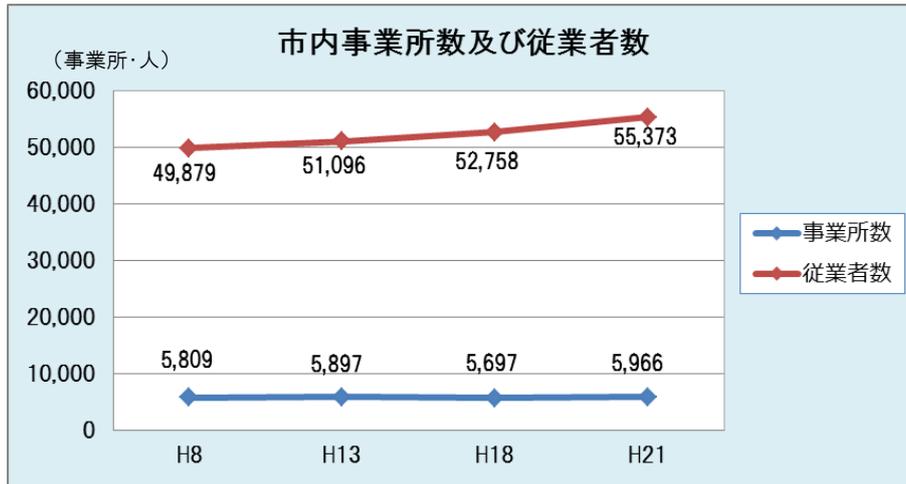
流出人口(H22.10.1現在)



(8) 企業立地

市内の事業所数は横ばい状況にありますが、従業者数は増加傾向にあります。

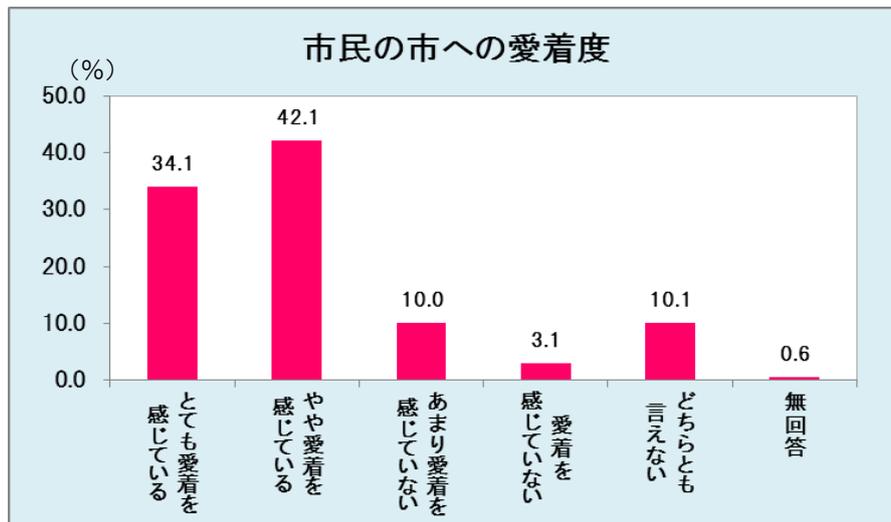
特に従業者数は平成21年に大きく増加していますが、これは平成20年に市内にオープンしたアウトレットモールによる効果と思われます。



資料：那須塩原市統計書

(9) 市への愛着度

市への愛着を感じている人は「とても愛着を感じている」と「やや愛着を感じている」を合わせて全体の76.2%になります。一方で「愛着を感じていない」人の割合も1割を超えています。



資料：第1次那須塩原市総合計画後期基本計画

3 グループインタビュー・WEB アンケートの結果

(1)グループインタビューの実施

はじめに、移住の傾向を把握するため、実際に本市へターン・Uターンした方を対象にグループインタビューを実施しました。

①実施要領

調査対象	IターンおよびUターンにより市内に在住する者
サンプル数	23名
実施日	平成25年11月3日(日)～4日(月・祝)
実施方法	・対象者を22～24歳、25～39歳、40～59歳、60歳以上の4グループに分類 ・各グループ120分ずつインタビューを実施

②結果

移住理由に関すること

- ア) 移住理由は、主に就職・転職・転勤・退職に係わる「仕事イベント」および、結婚などの「家族イベント」によるものがほとんどである。
- イ) 遠方から本市に移住する理由は、世代・Iターン・Uターンの区別に限らず、ほぼ仕事イベント(特に就職)である。
- ウ) 近隣市町から本市に移住する理由は、世代に限らず、家族イベントが多い。
- エ) 仕事イベントで地元に戻りたいと思う背景には、住み慣れている・親が居る以外に、「都会と田舎のバランスがとれている」ことを理由に挙げる方が多い。
- オ) 家族イベントのうち、結婚以外で強力に移住を誘引するのは、事故や病気などのネガティブな要因である。

移住先のエリア選定基準に関すること

- ア) 「転勤」や「地元に戻りたい」等の理由以外で本市を選んだ背景に、過去に那須塩原 に来訪した経験があることが挙げられる。
- イ) 本市に住むと決定してからのエリア絞り込みの判断要因は、会社・学校・実家等との距離であることが多い。
- ウ) 小児医療や学童保育などの「子育て環境」について、近隣市町のほうが良いと認識している方がいたが、移住理由までには至っていない。

その他

- ア) 転職先が遠方になったために新幹線通勤をしている方がいる。(後発的理由)
- イ) 子どもが生まれたことを理由にした移住はない。

(2)WEBアンケートの実施

グループインタビューの結果を基に、移住理由の特定・移住地域の選定基準などを調査するため、WEBアンケート調査を実施しました。

①実施要領

調査対象	WEBアンケート会社に登録している方
サンプル数	624名
実施期間	平成25年12月13日(金)～15日(日)
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者を以下の①・②に分類 ①世代ごとに18～39歳、40～59歳、60歳以上の3世代 ②居住エリアごとに以下の4エリア A 那須町・大田原市・矢板市 B 本市およびA以外の栃木県 C 東京・神奈川・埼玉・千葉の一都三県 D 群馬県・茨城県・福島県・宮城県 ・①×②=12のセルに分類し回答結果を分析

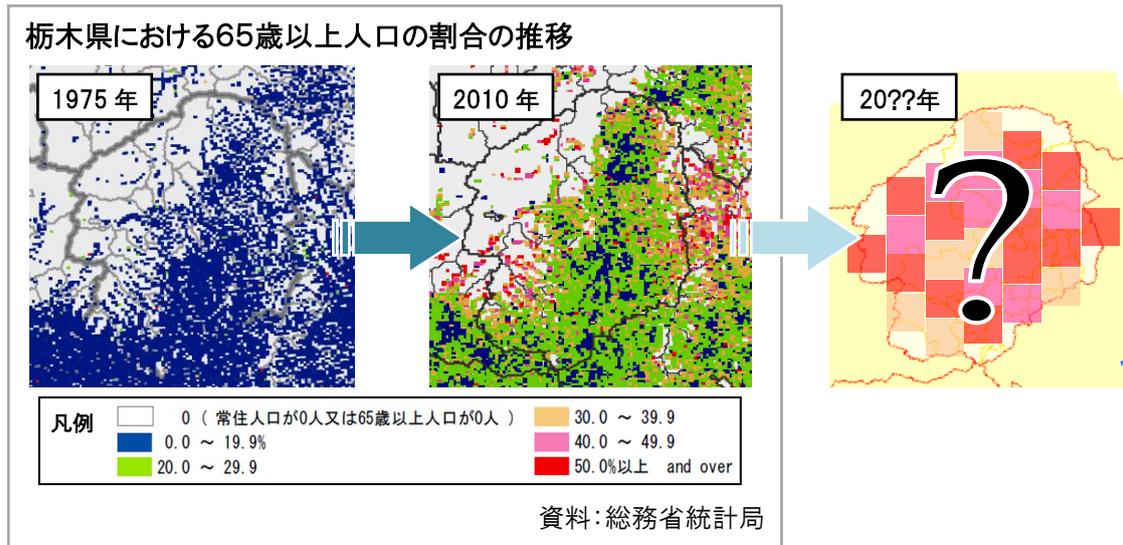
②結果

- 安全・安心な土地は、移住地として選定の優先度が高い。
- 雇用・事業所の創出、結婚時移住の支援施策、家の建て替え時の支援施策等が有効である。
- 同居の促進は移住につながる割合が高い。
- 結婚を契機とした引越の際に、実家の周辺であることを選定基準とする割合が高い。
- 地元のコミュニティを濃くすることは、Uターン促進に繋がる可能性が高い。
- 「学校」の存在は、近くに移住させられる効果が「会社」「実家」よりも高い傾向にある。
- 教育環境・子育て環境を重視する傾向は、世帯年収が高いほど強まる。
- 観光振興(交流人口増加)策は、定住促進に繋がる。
- イメージ戦略の必要性は高い。
- 住む場所の自然環境が大切だからといって、本市の自然環境を好むかどうかは別の問題であり、「自然」を具現化したPRが必要である。
- 行政サービスそのものの充実と同時に、PRに力を入れなければ参考にする人は少ない。

4 課題

(1) 超高齢社会への対応

本市の少子高齢化は全国平均と比べて緩やかに進むものの、将来的な高齢者人口の増加は避けられない状況にあります。加えて、高齢者の単独世帯や高齢者夫婦のみの世帯が増加することにより、日常生活において支援を要する方も増えることが予想されます。



現状のままでは、高齢者を支える立場となる地域の若者が減少し、地域による支え合い生活の維持が困難になります。

今後、若い世代の定住者をどのように増やしていくかが重要となります。

(2) コミュニティの再生

世帯の単独化や核家族化は、日常生活における多世代交流や近所付き合いの減少を引き起こし、結果として地元への愛着が薄れ、地元離れが進むことにつながります。

WEBアンケートの分析から、親世帯との同居の促進や地域コミュニティの持続などが重要と考えられます。

(3) 「オール那須塩原」による受け入れ体制の構築

本市に住んでもらうにあたり、「長く住みたい」と思えるような居住環境や、「安心して子育てができる」と思ってもらえる子育て環境の整備などに加え、市からの的確な情報提供、相談窓口の明確化が必要です。

また、定住を考えるにあたり、「そのまちに行ったことがあること」は、住む場所を決める大きな要素となります。回復傾向にある本市の交流人口ですが、来訪者をリピーターにし、後の定住につなげていくためには、官民一体となった市全体での「おもてなしの心」の向上が重要です。

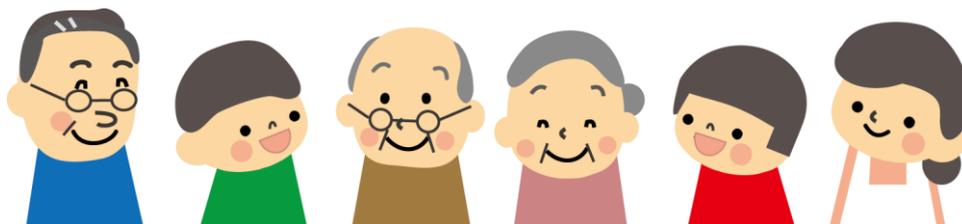
放射能対策については、風評被害の払しょくのため、早期の除染完了と正確な情報提供に努

めていくことが重要となります。

(4)シティプロモーシヨンの強化

WEBアンケートの分析から、「イメージ戦略」や「自然を具現化したPR」などの必要性が高いことが分かりましたが、現在はそれぞれが個別にPR活動を行っており、戦略的なものではありませんでした。

本市には、風光明媚な自然や本州一の生産を誇る生乳、多様な農産物、交通の要衝などの地域資源が存在しています。この地域資源を活用し、市の魅力を高めていくこと、さらには市の魅力＝「市のイメージ」を市内外へ発信し広めていく「シティプロモーシヨンを効果的に行い、類似する自治体との差別化を図り、観光客や転入者を増やすとともに、住民に誇りや地元愛を根付かせることが重要となります。



5 目標

本計画における将来的な目標値を設定し、定住促進の指針とします。

(1)短期的目標:本計画期間内

市への転入者数が転出者数を上回ること。

(2)中長期的目標:10年後

現在の人口規模117,000人を維持すること。

生産年齢人口比率60%を維持すること。

那須塩原市に愛着を感じている人の割合が80%以上であること。

(3)計画のキャッチフレーズ

本計画における定住促進キャッチフレーズを「Welcome!! なすしおばら ～選ばれしまちへ～
～ なすしおばらに 来い! 恋! 濃い!」とします。「那須塩原市に住んでよかった」と実感できる
まちを目指し、計画を推進していきます。

～那須塩原市定住促進キャッチフレーズ～

Welcome!! なすしおばら ～選ばれしまちへ～
なすしおばらに 来い! 恋! 濃い!

「来い!」…交流人口の増。まずは1度那須塩原に来てほしい!

「恋!」…那須塩原ファンの増。魅力全開の那須塩原に恋してほしい!

「濃い!」…定住人口の増。那須塩原で中身の濃い生活をしてほしい!



©みるひい 那須塩原市

6 ターゲットとニーズ

(1) ターゲットの設定

定住促進施策を展開するためには、「移住・定住を考えている人＝ターゲット」のライフスタイルを把握することが重要となります。グループインタビューやWEBアンケートの結果を踏まえ、ここでは本市の定住促進ターゲットとして4つの年代を設定し、それぞれが持つ思考・悩みを想定することにより、求めるニーズの明確化を図ります。

TARGET・1

ターゲット① ▶▶児童・生徒

【想定するイメージ】

本市での生活を満喫中。これから市外へ転出する可能性が高い若者。

那須塩原市に生まれた私。今は学校に通う毎日。たまに友達とケンカもするけど、ここの生活にさほど不満もなく、充実した生活を送っている。

最近「那須塩原のどんなところが好き？」って聞かれたけど、何って聞かれると……うまく答えられない。通学途中に見える山の景色も好きだし、おしゃれなカフェもあるけど、那須塩原の魅力って何だろう？

学校では那須塩原の開拓の歴史を教えてくれる。

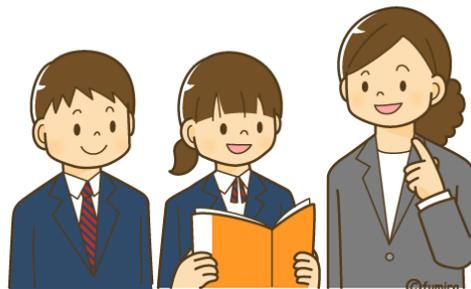
「開拓者の精神」って何だろう？「何事にもくじけず挑戦する心」って先生は言うけど、私たちにもそういう気持ち、少しはあるのかな？

とにかく今は、ここで楽しく暮らしたいなあ。

もう少ししたら、進学とか考えなくちゃいけないけど……。

◆ターゲットが求めるニーズ

- 毎日の生活を楽しくするための情報が得られているか？
- 転出後、地元に戻ってきたいと思う魅力があるか？



TARGET・2 

ターゲット② ▶▶▶20代前半

【想定するイメージ】

本市出身者が市外へ進学し、現在就職活動中。地元で就職したい20代前半の若者。

那須塩原を離れて3年、学生生活もいよいよ大詰め。仲のよかった仲間も最近では就職活動に勤しんでいる。私もぼちぼち就活しているけど、なかなか内定が決まらない。

地元を離れてみて思ったけど、那須塩原は新幹線の駅とか高速道路とかもあって、わりとどこにでも行きやすいし、余暇を楽しむスポットも結構ある。

親は「帰ってきたら？」ってしきりに言え、帰って働いてもいいけど、働き先があるかいまいちよくわからない。就職情報でもあるといいんだけど。

就職はもちろん心配だけど、地元に戻ったらいい「出会い」があるのかも心配。昔の友達は居るけど、新しい出会いも欲しいなあ……。

将来は、実家の隣に自分の家でも建てようかな？

◆ターゲットが求めるニーズ

- 地元での雇用があるかどうか？
- 必要な情報が的確に提供されているか？
- 移住に対する支援施策があるか？

TARGET・3 

ターゲット③ ▶▶▶20代後半～30代前半

【想定するイメージ】

ももとは地方出身者だが、都心での学生生活を経てそのまま都心に就職。しかし、毎日に疲れが出てきた30代前後の若者。

東京での学生生活を過ごした私は、そのまま都内の企業に就職しました。

最初のうちは新しい刺激も多く、やりがいのある仕事でもあり一生懸命働いてきましたが、最近では毎朝満員電車で1時間以上揺られる生活に、ちょっと疲れてきています。

いま結婚を意識しているパートナーがいますが、自然に囲まれたところでの生活に憧れているようです。出会ったころに行った那須塩原への温泉旅行や牧場体験の話をよくします。自分の地元にも雰囲気似ているし、思い切って引っ越すことも考えています。新幹線での通勤を職場が許してくれればの話ですが……。

今のスキルを生かした転職ができれば、それもいいかもしれないですね。

緑もゆかりもない土地での生活には、少し不安もあります。

◆ターゲットが求めるニーズ

- 転職する場合、雇用があるかどうか？
- 転職しない場合、都心へ通勤するための有利な条件があるかどうか？
- 新規移住者を受け入れる体制が構築されているか？

TARGET・4

ターゲット④ ▶▶▶30代後半～40代前半

【想定するイメージ】

都心に在住、職業はIT関係。共働きしながら、毎日の子育てに奮闘している40代前後の夫婦。

結婚して10年が過ぎ、仕事に家事に何かと忙しい日々を送っています。
 子どもは2人。上の子は小学校、下の子は保育園に通っています。最近、教育に対しての話を夫婦ですることが多くなりました。子どもを伸び伸び育てられる環境に憧れます。
 今はアパート住まいですが、家族4人では手狭になってきているので、そろそろ自分の家が欲しいです。都心で中古のマンションを買うくらいなら、少し遠くても広い一戸建てが欲しいので、どこかいい場所があったら教えてください。仕事はどこでもできるので。
 理想は、それぞれ都会で、それぞれ田舎。災害が少なく、夜には星がよく見えて、ある程度の近所付き合いがあったほうが安心して暮らせそう。
 …そんなところ、ありますか？

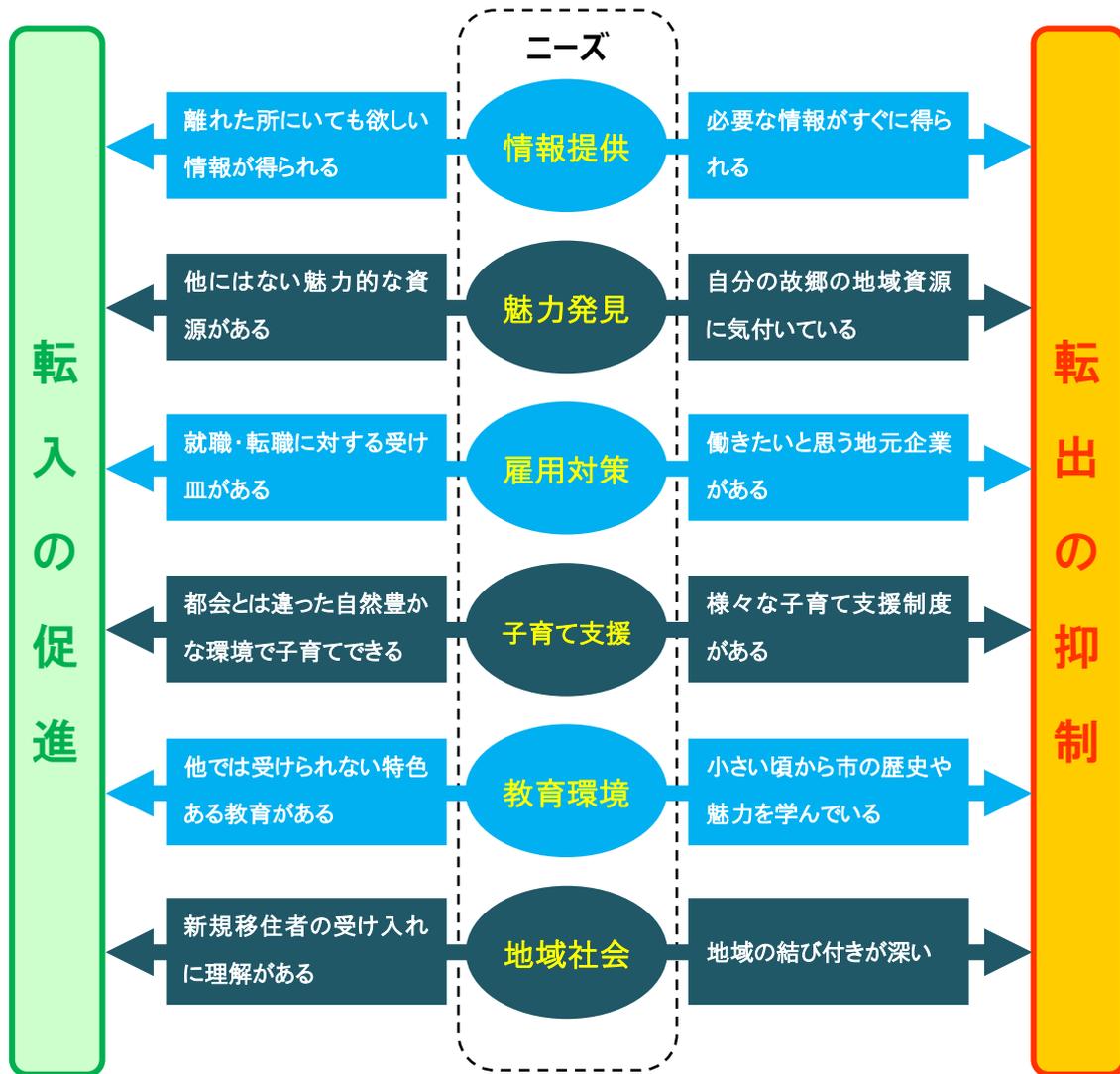
◆ターゲットが求めるニーズ

- 家族が安心して暮らせるか？
- 子育て環境・教育環境が充実しているか？
- 新規移住者を受け入れる体制が構築されているか？



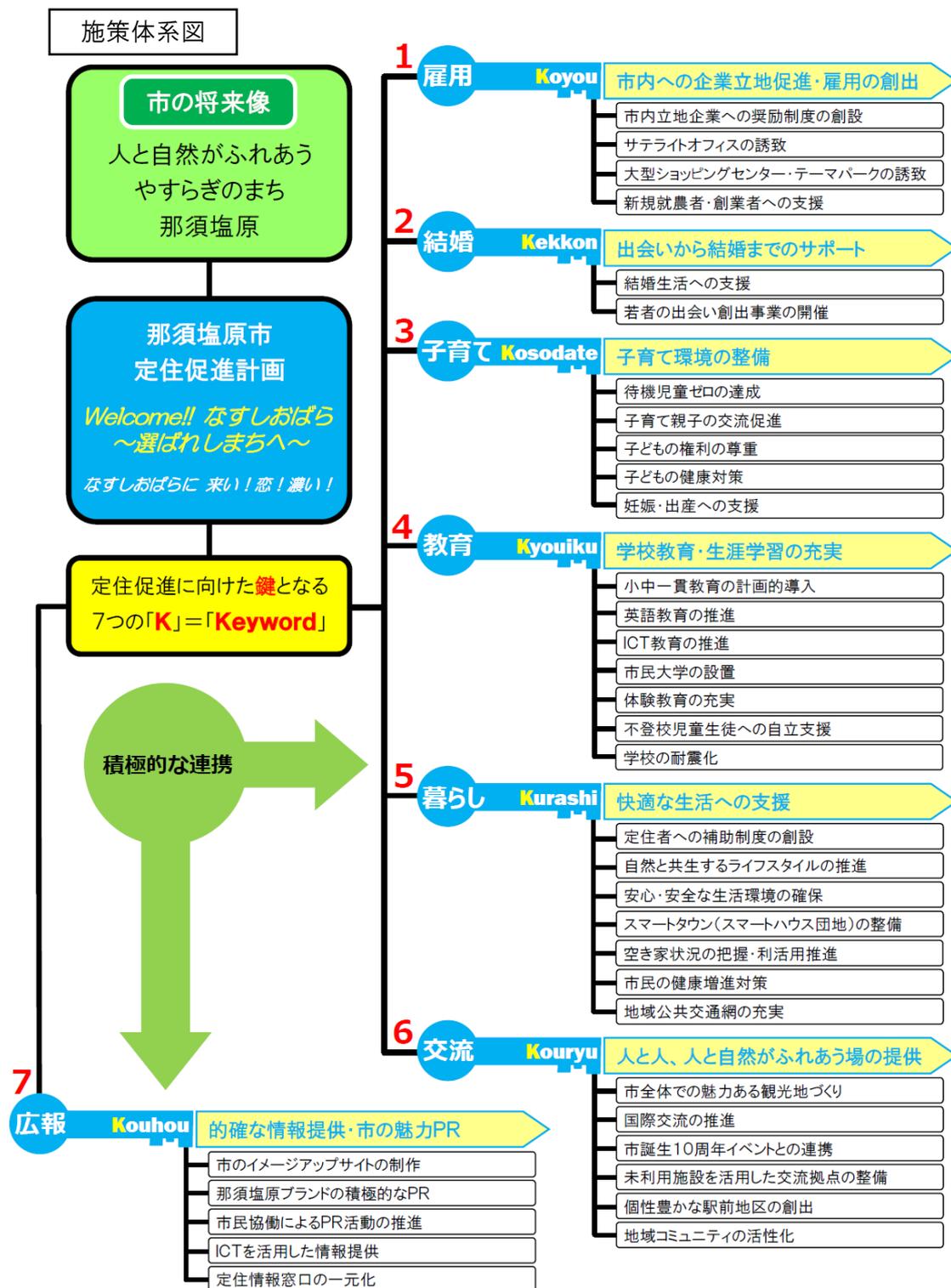
(2) 施策の方向性

ターゲットごとのニーズに対応するための施策の方向性として、大きく分けると「**転入の促進**」と「**転出の抑制**」の2つが挙げられます。本市にすでに住んでいる人と、新たに本市に移り住んでくる人の両方に対して、どのような視点で施策を検討していくかが重要となります。



7 重点施策

本計画では、定住促進に向けた鍵となる言葉(**Keyword**)として7つの「**K**」、「**Koyou**(雇用)」、「**Kekkon**(結婚)」、「**Kosodate**(子育て)」、「**Kyouiku**(教育)」、「**Kurashi**(暮らし)」、「**Kouryu**(交流)」、「**Kouhou**(広報)」を軸に定住促進施策を展開していきます。



Keyword-1**Koyou**（雇用）【市内への企業立地促進・雇用の創出】

(1) 市内立地企業への奨励制度の創設【新規】

新たに本市へ進出する企業の増加や、現在市内に立地している企業の市外流出を防ぐため、企業への奨励制度を創設します。

(2) サテライトオフィス※の誘致【新規】

市内に点在する空き店舗・廃旅館等をリノベーション※することによる、IT企業のサテライトオフィス誘致の検討を行います。

(3) 大型ショッピングセンター・テーマパークの誘致【継続】

地域の活性化および大規模な雇用創出のため、大型のショッピングセンターやテーマパーク等の誘致活動を行います。

(4) 新規就農者・創業者への支援【継続】

最長5年間の青年就農給付金のほか、本市の特色を生かした園芸作物栽培への補助など、新規就農者への支援を行います。また、関係団体等と連携し、農業の6次産業化を促進します。

新規創業者がチャレンジしやすい環境作りのため、市内商工会等と連携し、育成指導支援を行います。

Keyword-2**Kekkon**（結婚）【出会いから結婚までのサポート】

(1) 結婚生活への支援【新規】

結婚を機に移住・定住を検討する方が多いことから、結婚生活に関する支援制度の創設を検討します。

(2) 若者の出会い創出事業の開催【新規】

農業や自然など、本市ならではの環境を生かした若者の出会い創出事業を官民が連携して開催します。

Keyword-3**Kosodate**（子育て）【子育て環境の整備】

(1) 待機児童ゼロの達成【継続】

子育て世代が安心して働けるよう、待機児童ゼロを目指し、保育園や認定こども園等の整備を集中的に行うとともに、病児保育施設設置についての検討を行います。併せて、学童保育の充実を図ります。

※サテライトオフィス：企業と離れた場所に、企業の一機能を受け持つ事務所などを設置すること。IT技術の革新などにより分散オフィスが可能になったことにより生まれた概念。

※リノベーション：既存の建物に大規模な改修を加え、性能を向上させたり価値を高めたりすること。

(2)子育て親子の交流促進【継続】

ファミリーサポートセンターやつどいの広場、子育てサロンなどの充実を図るとともに、子育てサイトによる情報共有を促進します。

(3)子どもの権利の尊重【継続】

子どもが子どもらしく健やかに生活できるよう、(仮称)那須塩原市子どもの権利条例を制定し、市全体で子どもの成長を支援し見守る環境を作ります。

(4)子どもの健康対策【継続】

18歳までの子どもの医療費の自己負担分の助成を行います。(小学校1年生から18歳までは一部自己負担あり)

子どもの予防接種は、定期接種に加えて任意の予防接種(水痘・おたふくかぜ・B型肝炎)に対し、費用の一部助成を行います。

(5)妊娠・出産への支援【継続】

安心して子どもを産み育てられる環境を整えるとともに、妊婦健康診査費の一部助成等を行います。また、不妊治療においては、保険診療適用外の検査・診療費用の一部助成を行います。

Keyword-4**Kyouiku** (教育) 【学校教育・生涯学習の充実】

(1)小中一貫教育の計画的導入【継続】

義務教育9年間における小中学校教育の連続性を図るため、小中一貫教育の導入を計画的に行い、「人づくり教育」を推進します。

(2)英語教育の推進【新規】

国際化が進む現代社会に対応するため、市内小中学校への外国語指導助手(ALT)の配置を強化するとともに、コミュニケーション力や論理的思考能力を持った児童生徒を育成するため、特色ある教育を実施します。

(3)ICT教育の推進【新規】

私たちの日常生活の中に多種多様な形態で活用されている情報通信技術(ICT)について、教育現場の中での利活用を推進します。

(4)市民大学の設置【継続】

生涯にわたって「いつでも、どこでも、だれでも」が学習できる機会を提供するため、「那須塩原市民大学」を設置し、市民の学習活動を支援します。

(5)体験教育の充実【新規・継続】

児童が実際に目で見て、手で触れることができる体験型の教育を推進します。

(6)不登校児童生徒への自立支援【継続】

本市が運営する宿泊体験施設を活用し、不登校児童等の自立を支援するほか、児童へのアンケート調査の実施等、未然防止にも取り組みます。

(7)学校の耐震化【継続】

市内の小中学校の校舎や体育館などの耐震補強や改築工事を行い、児童生徒が安全に安心して学習できる環境を整えます。

Keyword-5**Kurashi**（暮らし）【快適な生活への支援】

(1)定住者への補助制度の創設【新規】

本市に新たに居住し、新幹線を利用して通勤する方に対し、定期券購入費用の一部を補助します。また、本市で新たに3世代同居や隣居のために住宅取得等をする方に対して補助を行い、家族の絆の再生を図ります。

(2)自然と共生するライフスタイルの推進【継続・新規】

自然エネルギーの再利用を推進するため、住宅への太陽光パネル設置費用の一部補助を行います。また、住宅への蓄電池や燃料電池等の設置に対する補助制度の検討を行います。

木質バイオマスのエネルギー利活用について検討を行うほか、生活の中で「木のぬくもり」を感じられるよう、木材利用の推進を図ります。

人々が自然と触れ合いやすさを得られる自然環境や田園風景を守るため、土地利用の適切な規制および誘導を行います。

(3)安心・安全な生活環境の確保【継続】

災害に強い土地である本市の特長を生かしたまちづくりの方策の検討およびPRを行います。

市内の上水道の老朽管更新を集中的に行い、安心で安全なおいしい水を供給するとともに、アセットマネジメント※を策定し、将来にわたった水の安定供給に努めます。

放射能対策は、住宅除染を完了させるとともに、空間放射線量の測定および食品放射性物質の測定などを行い、正確な情報を提供します。

(4)スマートタウン(スマートハウス団地)の整備【新規】

家庭内の電力を最適制御するエネルギー管理システム(HEMS)を持つスマートハウスによる「スマートタウン(スマートハウス団地)」の調査研究をはじめとした魅力ある住環境を整備し、持ち家率を高めます。

(5)空き家状況の把握・利活用推進【新規】

市内に点在する空き家等の状況把握に向けた検討を行い、利活用を推進します。

※アセットマネジメント：施設・設備を資産としてとらえ、その損傷・劣化等を将来にわたり予測し、計画的に施設整備をすることにより、効果的かつ効率的な維持管理を行うための方法。

(6)市民の健康増進対策【新規】

地域の拠点病院と診療所の「病診連携」を推進し、安心して医療行為を受けられる体制づくりに努めます。

また、市民の病気やケガの予防事業を推進するほか、健康増進における温泉の活用等の検討を行います。

(7)地域公共交通網の充実【継続】

地域バス「ゆーバス」や、平成25年10月から導入された「予約ワゴンバス」を運行するとともに、随時見直しを行うことで、より利用しやすい地域公共交通網の整備に努めます。

Keyword-6**Kouryu** (交流)【人と人、人と自然がふれあう場の提供】

(1)市全体での魅力ある観光地づくり【継続】

市内観光協会等と連携し、本市がもつ風光明媚な自然や温泉などの豊かな地域資源を生かした、他の地域にはない魅力ある観光地づくりを推進します。

(2)国際交流の推進【継続】

語学力が高く、各地の地方公共団体等で活躍している国際交流員(CIR)を招致し、異文化交流・多文化共生を推進します。

海外との姉妹都市協定の締結に向けた調整を行います。

海外でのインバウンド[※]拠点を設けるとともに、海外からの観光客に対応できる体制を整えます。

(3)市誕生10周年イベントとの連携【新規】

平成27年1月に那須塩原市は誕生10周年を迎えます。PR効果や集客力の高い10周年記念イベントと連携し、市内外との交流促進を図ります。

(4)未利用施設を活用した交流拠点の整備【新規】

譲渡を受ける旧TEPCO塩原ランドを利活用し、多くの人交流できる拠点を整備します。また、市有施設の有効活用について検討を進めます。

(5)個性豊かな駅前地区の創出【継続】

市内のJR各駅(那須塩原駅・黒磯駅・西那須野駅)それぞれの現状を踏まえ、駅前周辺の整備を進めることで、個性豊かな駅前地区を創出します。

(6)地域コミュニティの活性化【継続】

地域の若者などがより参加しやすい公民館事業を充実させるとともに、地域住民の憩いの場となるよう、コミュニティの活性化を図ります。また、都市住民を「地域おこし協力隊」として受け入れ、地域住民との交流を推進します。

※インバウンド：「入ってくる、内向きの」という意味で、観光業界において外国人旅行者を自国へ誘致すること。

Keyword-7**Kouhou**（広報）【的確な情報提供・市の魅力PR】

(1)市のイメージアップサイトの制作【新規】

本市の魅力が一目でわかるイメージアップサイトを制作し、那須塩原の見どころを分かり易く発信します。

(2)那須塩原ブランドの積極的なPR【継続】

「那須塩原らしさ」「独自性」「信頼性」「安定性」などに基づき認定されている「那須塩原ブランド」のPRを積極的に行うとともに、新たなブランド品の認定を行います。

(3)市民協働によるPR活動の推進【継続】

本市出身者をはじめ、本市をPRする意欲のある方を「ふるさと応援隊」に任命し、那須塩原市PRのための活動を支援します。

(4)ICTを活用した情報提供【継続】

地上デジタル放送を利用した情報発信を行い、いつでもどこでも市の情報が入手できる環境を整えます。また、SNS*などのコミュニケーションツールを積極的に活用し、口コミによるマーケティングも行います。

(5)定住情報窓口の一元化【新規】

定住を検討している方へ効果的に情報を提供するため、定住促進窓口を明確化し、ワンストップサービスに努めます。



※SNS：「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」の略。個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。趣味、職業、居住地域などを同じくする個人同士のコミュニティを容易に構築できる場を提供している。

8 今後の進め方

本計画を効果的に推進するため、庁内に定住促進の担当部署を設置します。担当部署で定住促進情報を一元化することにより、定住希望者に対してきめ細やかなサービスを行います。

また、定住促進施策は単独で行うより複合的に展開することが効果的であるため、各部の連携体制の強化はもとより、関係団体や市民との協働を図ることで、市全体が一体となって計画を推進していきます。

個別事業についてはアクションプログラムを策定し、目標の達成に向け着実な事業推進に努めます。

また、アクションプログラムは毎年度進行管理を実施し、事業の見直しや新規事業の追加を適宜行うことにより、実効性の高い事業を展開していきます。

